

年間第 15 主日 (マタイ 13:1-23)

種は良い土地に落ち、実を結んだ



今週から三週にわたってマタイ福音書第 13 章が朗読されます。第 13 章全体は「たとえを用いた話」で、たとえに耳を傾け、イエス様が本当に伝えたいこと、理解してほしいことにさらに分け入っていく努力が必要になってきます。たまに、私も説教の最初に話していることを、説教の中心部分にうまく繋げることができたりします。そのときは自分としては「繋がりができてよかった」と感謝します。

イエス様は、まず湖のほとりに座っておられます。そこに大勢の群衆が集まってきました。それでイエス様は舟に乗って腰を下ろし、話し始められます。私は今の今まで、「群衆が押し寄せてきているから、話が全体に行き渡るように、舟で少し距離をおいたのだろう」と本気で思っていました。しかし先週紹介した「福音宣教」という雑誌の山下神父様の説明はそうではありませんでした。

これは、「声は届くけれども、聞く耳のある人しかその真の意味を理解できない距離である」という意味なのだそうです。その証拠に、弟子たちは話の後、「イエスに近寄った」(10 節参照)とあり、たとえ話の意味を説明してもらおうと近づいたのでしょう。

他の群衆は、たとえ話を聞いたには聞いたけれども、「耳のあるものは聞きなさい」と言われていることでも分かるように、その説明、真に理解してほしいことまで分け入ろうとはしませんでした。これは「私たちはどうしますか？」という問いかけでもあります。

最近ひんぱんに、中田神父の同級生が病と向き合っていることを取り上げています。中学からの同級生の下窄英知神父です。いろんなところで話したので、どこでどの話をしたか覚えていませんが、最初から、今の今まで、仲が良かったことは一度もありませんでした。理由は簡単です。同じ上五島出身で張り合っていたということ、成績も競り合っていたということ、向こうは町会議員の息子で、自分は中学上がりの遠洋漁業の父親の息子です。「負けたくない」という一心でした。

それは司祭になってからもずっと同じでした。しかし今、重い病と向き合い、大学病院から、ホスピス病棟のある病院に移されました。もはや緩和ケアのみ、ということなのでしょう。ただ、私には目に見える姿の先に、目に見えない姿が初めて見えるようになりました。

「種を蒔く人が種蒔きに出て行った。(中略)ところが、ほかの種は、良い土地に落ち、実を結んで、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍にもなった。」(13・8) いま病の中で懸命に生きている下窄神父が、良い土地となって、はるかに豊かに実を結んでいる姿が見えるのです。

中田神父も、あちこち教会に赴任して、私の中に蒔かれた種の結んだ実を残しては来たと思います。しかし、私はある時期は道端におり、種は鳥に食べられ、ある時は石だらけで土は少なく、せっかくの実

は枯れてしまい、ある時は茨に覆い塞がれて実を結べませんでした。

そこからすると、下窄神父は今、すべてを神に委ねる以外に方法がなくなった状態です。それは人の目には不幸に見えるかもしれませんが、神に自分を完全に委ねるしかない状態で、そのとおりに実行しているのですから、立派な良い土地に仕上がっているわけです。イエス様が蒔いた種は、私などよりはるかに多くの実を、彼の上に結ばせてくださると信じています。

結局、たとえ話を聞いて、弟子たちのようにさらにイエスに近寄ってたとえの説明を聞こう、理解しようとする人でなければ、イエスが蒔いてくださった種は実を結ばないのです。私自身は、抱えていることはたくさんあって、その一つ一つに対応していますが、イエスの招きにさらに一步踏み込んで、イエスの招きにさらに分け入って、実を結ばせてもらう努力に欠けていたと思います。それは、先週話したような、静かに祈る時間、聖櫃の前に一人でとどまって、もっと近くで語りかける声に耳を傾ける。そういう努力が足りなかったということです。

運命のいたずらかもしれませんが、下窄神父は今、24時間すべてをイエス様の前に差し出し、イエスの声を聞き、イエスに自分自身を委ねています。私が飛んで回って、あー忙しいと言い、疲れた結果朝寝坊してミサをすっぽかしたりしているのは天と地の開きがあります。

かつては開きがあるというコンプレックスで「なにクソ」と、「あんなやつに負けるか」と、ライバル心むき出しでしたが、すべてをイエス様に委ねている姿を想像すると、そうしたことはどうでも良くなり、畏敬の念すら持っています。できれば、24時間神様に自分を委ねる日々が、一日でも長く与えられるように、心から願っています。

そしてゆるされるなら、私の身勝手に彼と疎遠になっていたこと、兄弟司祭とすら考えることができずにいたことを、お詫びしたいと思っています。私たちは、何かの機会を捉えて、「種蒔く人」イエスにとって、良い土地となるべく、生活を整えていかなければなりません。

年間第 16 主日(マタイ 16:24-43)